

1 中根山開拓碑
高丘新町



狸や野うさぎが棲息していた中根山の台地は、昭和25年ころより開拓の対象となり、約22haが畑地になった。昭和54年、開拓の記念と舌薔をしのび、高丘新町春日の地に石碑が建てられた。
「狐狸様みよこの丘の野を切りひらき戦後の舌薔乗り超えてきぬ」
川村 小波 (監修)

2 下馬観音
駒場町



鎌倉街道沿いに、下馬山慶雲寺があったと伝わる。室町時代に戦火焼失後、天文年間(1572)に南濃和州が八幡無量寿寺に移したという。標札裏に「下馬観音慶雲寺」とあり、江戸時代末期に下馬山に再建され、その後、駒場町の鐘塚へ移築された。

3 自治区の拠点 こまなぼ公園
駒場町



平成4年、待望の駒場区民会館や老人憩いの家等が建設されて、駒場自治区の中核地が完成した。この地は3,100mあり、三百年の歴史の大橋が流る。もとは弘化年間に開業した加藤医院の屋敷跡で、子孫の加藤寿作・源四郎氏の格別のご協力があり、公園になった。

4 金山揚水事業
駒新町



約100年前、金山周辺の農民は、眼下の逢妻川の恩恵を受けず困窮が続いた。川水を高台へ引くことは長年の夢であった。明治45年、地元の内藤乾蔵は、父曹一や都築重治郎の力で蒸気動力を用いて、16mから揚水して270haを潤す計画を実現させた。昭和47年愛知用水完成まで、この灌漑施設は利用されていた。

5 内藤曹一郎 (現存唯一の武家屋敷)
駒新町



曹一は弘化3(1846)年福島藩家老内藤次良男として誕生した。藩封で上置原に移住、明治12年板垣退助らと「自由党」を設立し、自由民権運動に奔走した。県会議員、国会議員を勤め、明治期の殖産興業、用水開削等に尽力した。明治44年に64歳にて金山で没す。

6 鎌倉街道
写真は駒場町夜念寺付近




駒場小学校区を駒場町、駒新町、中田町と横断する歴史の道である。この道は高岡町時代には町道1号「鎌倉」線として、地域を代表する歴史遺産であった。知立市境から刈谷市境まで僅か3kmに過ぎないが、この道が京や東国の先進文化を当地にもたらした。

7 中田の裸まつり
中田町



中田町の氏神様八幡社境内には、「大田御農社」が鎮座している。裸まつりは改築の際、国府宮のお札が見つかったことを契機に、国府宮の認可を受けて昭和10年に始まった。戦争や台風による中断もあったが、今では市外からも多数参加がある。

8 洪水から集落を守った霞堤
大島町



逢妻女川のほとりの集落は、川から高台に向け堤防を築き、洪水を防いでいた。霞堤の仕組みは、上流から押し寄せる濁流を差口から一時的に導水地としての田へ水を流し込み、大水を調整した。

町名	面積 (ha)	人口	世帯数
豊田市	91,847.2	422,378	168,877
前林中学校区	1,901.4	23,298	9,324
駒場小学校区	555.1	6,841	2,451
生駒町	101.6	1,289	484
駒新町	83.7	957	360
駒場町	232.4	2,616	903
中田町	137.4	1,979	704
堤小学校区	1,346.3	16,457	6,873
大島町	88.8	2,315	808
上丘町	123.6	734	272
高岡町	170.8	1,325	487
高丘新町	92.0	697	335
高岡本町	56.4	1,484	574
堤本町	331.2	2,601	914
西岡町	113.7	4,245	2,294
本田町	109.2	799	295
前林町	181.3	1,813	746

豊田市前林地区 史跡ガイドマップ
発行：ザ・めがわ塾



来た！見て！感じて！

凡例


- こども園、幼稚園
- コンビニエンスストア
- 医院、病院
- 学校
- 寺
- 神社
- 逢妻女川敷南路
- 池
- 森

9 花馬と桜並木
本田町



江戸時代から昭和中期まで、ここから知立神社に向かって、堤七ヶ村の花馬行列が発した。神馬七頭のうち一頭は御幣を置き、残り六頭は花で美しく飾った花馬である。ここにある桜並木は、明治42年、市川(職)により堤青年会発足を記念し、植樹された。

10 甘藷づくり名人 刈谷杉右衛門
西岡町



大正2年、岐阜県より西岡町唐池に移住した杉右衛門は、荒地を開墾し、甘藷(さつまいも)づくりに取り組んだ。戦中、戦後の食料不足時に甘藷の増産方法を各地で行い、食料の確保に大きく貢献し、賞状褒章をはじめ多くの賞を受賞した。

11 堤付街道
写真は堤町の平針街道交差点



昔、刈谷市今岡町の近くまで海が入り込んでいたころ、海舟・吉良・大浜・堀尾などの塩田で製造された塩が、刈谷市泉田町の神社近くの土壌に堆積された。塩は馬の背に乗せて、泉田から半馬などへ運ばれた。「馬がいなく石根の山に塩が重いと云うて鳴く」

12 西部開発事業
本田町



昭和10年、愛知県企画局により本田町の石根開拓地を中心として、高岡町、三好町の一部、刈谷市井ヶ谷地区を核とした内陸工業地域の造成が計画され、幾多の困難があったが、昭和40年12月には用地買収が完了した。昭和41年9月にはトヨタ自動車高岡工場、乗用車のカローラ第一号が完成した。

13 本地城と城塚古墳
堤本町



室町時代、畠山六郎が本地に居住し、850ha(堤小学校区のほとんど)の領地を足利氏より拝領し居城を構えた。六郎が死去すると、子孫なき家は廃業され、廃城となる。この城内の一画にあったといわれる城塚古墳は、7世紀後半に造られたものであり、須磨寺などが発掘されている。

14 平針街道と御茶屋
堤町



平針街道は徳川家康の命で、岡崎一名古屋敷の脇街道(往還)として開かれ徳川秀忠のころ完成した。大坂夏の陣には、東軍の軍兵が通過した。この近くに御茶屋という地名がある。橋狭間の合戦で家康が大高から撤退した際、堤村に立ち寄りお茶を召し上がったことから御茶屋といわれている。

15 女川の大曲
堤町



ここは逢妻女川の古川である。天保10年(1839)7月、干ばつで堤村と打越村と乙尾(現上丘町)村との間に水争いがあった。当時裁判所を新築して江戸浅草観音の分身が高林寺観音堂に安置されている。

16 堤揚水場跡
堤町



昭和8年堤耕地整理組合により、北西部の丘陵地の山林原野が開墾された。大曲の堤から地下4.5mの所に導水管が延長365m敷設され、高地へ揚水されて、約100haの田と25haの畑を灌漑した。自家発電による日本で最初の揚水事業と言われている。

17 上丘町の高地
上丘町



ここは、海抜41mあり、堤小学校区内で一番高い所である。この一帯は、昭和16年に陸軍の演習場となった。それにちなんで記念碑が建てられている。現在では、田畑が減り、近くにトヨタ自動車高岡工場や高岡配水場、国道155号のバイパスなどが見られる。

18 郷社神明宮
高岡町



この郷社は、昭和4年に竣工し昭和6年4月に竣工された神明道の神社である。運営費は今の金額で5億円にもなり、小さな村での大事業で神への信仰心の深さを物語っている。この神社では「鎌倉」という伝説の魔除けの歌が祭りに出る。

19 村上忠順と千巻舎
高岡町




村上忠順は文化9(1812)年刈谷藩医の次男として誕生した。村上家は代々医者世家としていた。忠順は医学の一方、学問を好み、国学や和歌等に打ち込み、書物の収集、筆写、著述に勤めた。書物は千巻舎に収納され、その書庫は市の有形文化財に指定されている。

20 六鹿会館
高岡町



美濃田(現岐阜県)生まれの六鹿清七は、明治30年ころから明治45年までに、幾多の苦難に耐え新馬場(現高岡町)の地に約180haを開墾した。戦後、高岡村が清七の建造物を譲り受け、有形文化財となり、教育文化施設の中核として今日にいたっている。

21 極楽禅寺
駒場町



往古の開創であるが由緒は不詳である。享保14(1729)年に古河和尚が入寺した。村役人衆議で興隆寺として永代弟子相続を定め、現在は10世目である。この寺では、文政2(1819)年から明治20年までに、周辺の堤、花屋、知立を含めた地域の児童約1500名の教育が行われた。

22 高林寺
堤町



天文11(1542)年上野(現豊田市上野町)城主酒井将監忠尚が、高林寺を建立した。開山は大樹寺第11世悦賢である。忠尚は、三河一向一揆の時、松平元康(家康)に反抗して戦ったが、敗れて出奔した。忍んで登壇山麓で病死したとも、御茶屋で死んだともいわれている。

23 女川調整堰跡
堤町



昭和27年ころより女川の改修工事が行われた。平針から下町には旧河川が残っている。豪雨の時に、旧河川の氾濫防止と遊水防止として排水のために堰がつくられた。下町には、集落を守るためにつくられた高さ3m幅2mの霞堤跡がある。

24 青木地蔵
堤町



安置の年代は判明しないが、堤町地内で最も古くから祀られている。堤付街道沿いにお堂があったが、土地改良事業のために現在は管理事務所跡地に移転された。地蔵は「願いごとをかなえてくれるお地蔵さん」として、毎日お参りの人が絶えない。